

戦後80年

1945年の記憶



中村宏《空襲》2022年

2025

6.25 [水] - 7.18 [金]

ギャラリー 58

〒104-0061 東京都中央区銀座4-4-13 琉映ビル4F
TEL 03-3561-9177 <https://www.gallery-58.com/>
12:00-19:00 土曜日と最終日は17:00まで 日曜休廊 入場無料

赤瀬川原平

AKASEGAWA Genpei (1937-2014)

石内都

ISHIUCHI Miyako (1947-)

篠原有司男

SHINOHARA Ushio (1932-)

中村宏

NAKAMURA Hiroshi (1932-)

吉野辰海

YOSHINO Tatsumi (1940-)

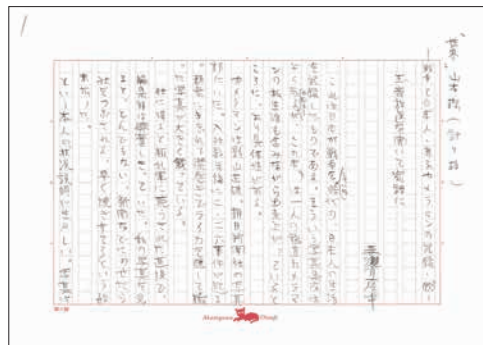
2025年は戦後80年という節目の年を迎えます。第二次世界大戦を体験した世代は少なくなり、戦争の記憶が日々薄れてゆく中、世界では依然として戦火が止むことはありません。本展では、戦後の日本を代表する5人の美術家が、それぞれの視点から戦争の記憶や体験を投影した作品を紹介します。

1945年、赤瀬川原平(当時8歳)は大分市で幾度も空襲を経験し、深夜の大分大空襲で死を覚悟します。篠原有司男(当時13歳)は空襲で東京の家を失い、疎開先の長野県佐久市で終戦を迎えます。中村宏(当時12歳)は軍需工場が密集する静岡県浜松市で日々繰り返される爆撃に怯え、吉野辰海(当時5歳)は花火のように燃える仙台大空襲の記憶が今も鮮明に蘇ると語っています。戦後生まれの石内都は米軍基地の街・横須賀で育ち、広島原爆資料館に毎年納められる遺品の撮影を2007年から続けています。

本展では、篠原有司男、中村宏、吉野辰海が自身の戦争記憶と向き合った絵画、赤瀬川原平の戦争に関するエッセイの生原稿とイラスト、石内都の写真「ひろしま」シリーズを展示いたします。戦争の記憶が私たちの日常から遠ざかっていくいま、それぞれの美術家が語る「1945年の記憶」を通じて、過去の出来事と向き合い、未来へと繋がるメッセージを受け止めていただければ幸いです。



石内都《ひろしま #59》2007年



赤瀬川原平『玉音放送を聞いて家路に』原稿 2006年



赤瀬川原平《終戦》1975年

戦後80年 1945 年の記憶



吉野辰海《殺すな》2025年



篠原有司男《防空壕掘りで張切のおやじ》2025年

晴海通り	並木通り	↑有楽町
ARMANI	999.9	
BOTTEGA VENETA	GUCCI 58 BEAMS B2 琉映ビル4F	
銀座4丁目 交差点	B1 銀座駅 Ginza Sta. 和光 銀座通り(中央通り)	
GINZA PLACE	三越	松屋

2025.6.25 [水] - 7.18 [金]

12:00 - 19:00 土曜日と最終日は17:00まで 日曜休廊 入場無料

ギャラリー 58

〒104-0061 東京都中央区銀座4-4-13 琉映ビル4F

TEL 03-3561-9177 <https://www.gallery-58.com/>

東京メトロ銀座線・日比谷線・丸ノ内線「銀座駅」B1・B2出口より徒歩1分

JR有楽町駅より徒歩5分 協力:The Third Gallery Aya

